



<歴史シリーズ・第2回> 日本のエンデュランス馬術の黎明期

日本におけるエンデュランス馬術の可能性を模索したのは、3名の早稲田大学馬術部 OB でした。

楠山 薫二郎氏 新庄 武彦氏 林田 啓介氏

残念ながら3名ともすでに亡くなられ、当時の活動に関する出版物も見当たりません。

筆者がエンデュランスに興味を持ったのが2001年ですから、当時の事には関わっておりません。

が、幸いにも楠山氏に何回かお目にかかる機会がありましたので、当時伺ったお話をお伝えします。

皆様ご存知の通り、エンデュランスには広く展開する走路が必要です。

1995年から準備に入った三氏は、エンデュランス競技の可能な環境がないかと、日本各地を回って歩き、探されたそうです。

又、楠山氏が会長となり、「日本長距離騎乗協会」という、エンデュランス馬術の基礎となる団体も立ち上げます。(正確な期日はわかりません)

1998年には楠山氏自らテヴィス・カップを完走しています。

1998年～1999年には、北海道で模擬的なエンデュランス大会も行っています。

これだけ聞きましても、三氏のご苦勞には、本当に頭がさがる思いです。

そして2000年、いよいよ日本のエンデュランス馬術は元年を迎えます。

「浅間」「小淵沢」「恵那」でトライアル的な大会を開くと同時に、「鹿追」では「第1回全日本エンデュランス馬術大会」が行われました。

ここで、小淵沢で行われた大会について、少しお話ししましょう。

当時はまだ「エンデュランス」という言葉も知らず「トレッキング」という名称で、5km/10km/20km の3つの種目が行われました。

ルールは「小淵沢ルール」、今のエンデュランスには程遠い、次の様なイメージのものです。

・標準タイム(例えば 10km は 60 分)にプラスでもマイナスでも一番近い選手が優勝

・ハザードを嫌って通れない場合は下馬して引いてもよいが、その場合は減点〇〇点として走行時間に加算する etc...

外乗すら未経験の方も含め、参加は20名位だったでしょうか。

町役場の共催も得た大会は「馬のまち 小淵沢」ならではのお祭り気分、賑やかに行われました。

【予告】次回は「全日本が始まった頃(予定)」をお伝えします。

文責：日本エンデュランス・ライド協会 高鳥

